

# 孤発性CJD分類の改訂 MM1+2CとMM1の感染性からの検討

研究分担者: 北海道大学大学院獣医学研究科比較病理学教室 小林篤史

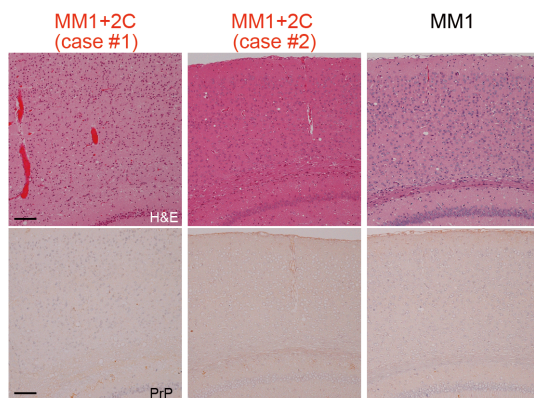
1

| 接種材料 (case No.) | マウス系統名<br>(導入したヒトPrP遺伝子のコドン129と219における正常多型) |                   |              |              |              |
|-----------------|---|-------------------|--------------|--------------|--------------|
|                 | 129M/M                                      | 129M/V            | 129V/V       | 219K/K       | ChM          |
|                 | (M/M, E/E)                                  | (M/V, E/E)        | (V/V, E/E)   | (M/M, K/K)   |              |
| MM1+2C (#1)     | 615±8 (6/6) <sup>a</sup>                    | N.D. <sup>b</sup> | 717±44 (6/6) | 647±49 (5/5) | 162±13 (6/6) |
| MM1+2C (#2)     | 580±8 (5/5)                                 | 595±6 (4/4)       | 588±11 (4/4) | 594±10 (5/5) | 160±9 (4/4)  |
| MM1 (#1)        | 467±24 (8/8)                                | 490±26 (5/5)      | 774±32 (6/6) | 573±52 (5/5) | 142±3 (5/5)  |
| MM1 (#2)        | 531±47 (5/5)                                | 508±55 (6/6)      | 588±3 (5/5)  | 527±31 (6/6) | 154±5 (6/6)  |
| MM2C            | - (0/7)                                     | - (0/7)           | - (0/7)      | - (0/8)      | - (0/6)      |

<sup>a</sup> 平均潜伏期間 (days ± SEM) と感染率 (感染したマウス匹数 / 接種匹数)

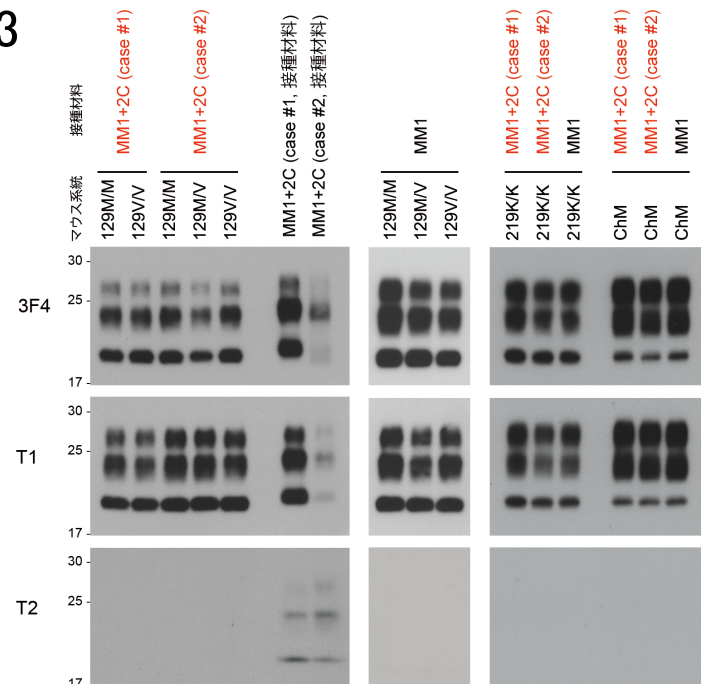
<sup>b</sup> N.D., not done

2



感染マウス(129M/Mマウス)における  
脳病変およびPrP沈着パターン

3



感染マウスの脳に蓄積した異常型PrPのタイプ

## 解説

1. プリオン病診療ガイドライン改訂のために、感染性の点で孤発性CJD MM1+2CをMM1やMM2Cと区別する必要があるのか検討した。感染実験では、MM1+2Cは潜伏期間(パネル1)、PrP沈着パターン(パネル2)、異常型PrPのタイプ(パネル3)の点でMM1と全く同じ感染性を示した。MM2Cはいずれのマウス系統にも感染しなかった。
2. また、45例の硬膜移植関連CJD症例を検索したが、MM1+2Cの特徴であるシナプス型と空胞周囲性PrP沈着の混在を示す症例は1例もみられなかった。
3. MM1+2Cの感染性は、動物への感染実験においても、ヒトの医原性感染においても、MM1の感染性と同じであることが明らかになった。これはMM2Cの感染力が非常に弱いためだと考えられる。MM1+2CとMM1は臨床病理像が異なることから現在は別のグループに分類されているが、感染性には差がみられず、感染予防という観点からは両者を区別して考える必要はないことが示された。